

令和5年度 学校評価（保護者用） 集計結果

回収率 小学部100% (44/44) 中学部89.7% (26/29) 高等部92.3% (36/39) 全体94.6% (106/112)

【 A:そう思う B:どちらかというと思う C:あまりそう思わない D:そう思わない N:分からない 】

番号	評価項目	小学部						中学部						高等部						全体					
		A	B	C	D	N	合計	A	B	C	D	N	合計	A	B	C	D	N	合計	A	B	C	D	N	合計
1	【小学部の保護者のみ回答】 生活の基礎となる力を育てるために、指導内容や指導方法を工夫し、児童が自分で考えたり、選んだりする力を育てる授業づくりに努めていると思いますか。	39	4		1		44													39	4	0	1	0	44
		89%	9%	0%	2%	0%														89%	9%	0%	2%	0%	
1	【中学部の保護者のみ回答】 生活経験を広げながら、集団の中で生活する力を育てることができていると思いますか。							16	6	1		2	25							16	6	1	0	2	25
								64%	24%	4%	0%	8%								64%	24%	4%	0%	8%	
1	【高等部の保護者のみ回答】 学習活動や行事などを通して、社会生活に必要な技能や習慣が身に付いてきていると思いますか。													19	15		1	1	36	19	15	0	1	1	36
														53%	42%	0%	3%	3%		53%	42%	0%	3%	3%	
2	「個別の指導計画」は、担任と保護者で十分に話し合い、子どもたちの実態に合った目標を立て、通知表や懇談等で適切に評価することができていると思いますか。	39	5				44	13	11	1		1	26	22	13	1			36	74	29	2	0	1	106
		89%	11%	0%	0%	0%		50%	42%	4%	0%	4%		61%	36%	3%	0%	0%		70%	27%	2%	0%	1%	
3	『人権だより絆（きずな）』や『人権作品展』は、人権学習の様子が分かったり、人権について考えたりする機会になっていると思いますか。	29	11	1		3	44	11	10	2		3	26	16	14	3	1	2	36	56	35	6	1	8	106
		66%	25%	2%	0%	7%		42%	38%	8%	0%	12%		44%	39%	8%	3%	6%		53%	33%	6%	1%	8%	
4	学校のホームページは、教育活動の様子をタイムリーに伝え、家庭や地域に必要な情報を発信できていますか。	30	13	1			44	14	7			5	26	18	13	1		4	36	62	33	2	0	9	106
		68%	30%	2%	0%	0%		54%	27%	0%	0%	19%		50%	36%	3%	0%	11%		58%	31%	2%	0%	8%	
5	横断歩道や信号機を使用して行っている交通安全週間は、子どもたちが交通ルールを守って安全に生活するために役立っていると思いますか。	31	13				44	11	11			4	26	24	10			2	36	66	34	0	0	6	106
		70%	30%	0%	0%	0%		42%	42%	0%	0%	15%		67%	28%	0%	0%	6%		62%	32%	0%	0%	6%	
6	「進路ガイド」や「進路だより」（昨年度3学期発行）、進路説明会（講演会）などは、児童生徒の進路や卒業後の生活を考えるために役立っていると思いますか。	31	9		1	3	44	13	8			5	26	20	14			2	36	64	31	0	1	10	106
		70%	20%	0%	2%	7%		50%	31%	0%	0%	19%		56%	39%	0%	0%	6%		60%	29%	0%	1%	9%	
7	『保健だより』や『給食だより』の内容は、子どもたちの成長や健康に関する情報として、家庭生活にも役立つ内容になっていると思いますか。	33	9				42	16	7	1		2	26	24	11			1	36	73	27	1	0	3	104
		79%	21%	0%	0%	0%		62%	27%	4%	0%	8%		67%	31%	0%	0%	3%		70%	26%	1%	0%	3%	
8	「個別の教育支援計画」は、子どものよりよい生活を目指し、学校と家庭が連携して必要な支援を行うためのツールになっていると思いますか。	37	4	1			42	17	6	1		2	26	25	9	1		1	36	79	19	3	0	3	104
		88%	10%	2%	0%	0%		65%	23%	4%	0%	8%		69%	25%	3%	0%	3%		76%	18%	3%	0%	3%	
9	PTA活動（座談会、環境委員会活動、講演会など）や親の会の余暇活動が効果的に実施されたと思いますか。	30	9	1		2	42	11	10	2		3	26	15	14	4	1	2	36	56	33	7	1	7	104
		71%	21%	2%	0%	5%		42%	38%	8%	0%	12%		42%	39%	11%	3%	6%		54%	32%	7%	1%	7%	

学校評価（保護者用） 集計結果

○「できている」「どちらかというときていいる」を合わせると6項目で90%以上、5項目で85%以上の評価が得られました。
○「あまりできていない」「できていない」が昨年より少し増えた印象。そのはっきりとした理由は得られなかったが検討し、来年度以降に生かしていきます。

令和5年度 学校評価（保護者用） 集計結果



令和5年度 学校重点目標・評価

評価: A:できた B:まあまあできた C:あまりできなかった D:できなかった

	年度当初		年度末	
学校	重点目標	目標達成の具体的方策	年度末評価	評価
学校全体	○学びの連続性とキャリア教育の推進 自立し社会参加するために必要な力を育成するため、12年間の学びを見通して、組織的・系統的に指導を行う。	・児童生徒の実態や12年間の系統性を考慮した本校の特色ある教育課程を検討する。 ・各教科等のねらいや内容を明確にした年間学習指導計画作成に取り組む。	・各部で教育課程を指導内容別と指導形態別で表し、各教科等を合わせた指導において併せている教科・領域を明確にした。12年間の系統性という点では課題が残っている。 ・年間学習指導計画について、全校で様式を統一し、指導内容や指導のねらいを明確にした。	B
	○確かな学びの定着 児童生徒の能力や可能性を最大限に伸ばすため、多様な障害特性に応じた指導内容や指導方法を工夫する。	・「生きる力」を育むため、校内研究と連携して「深い学び」に視点を当てた授業改善を行う。 ・一人一人の教育的ニーズに対応するため、自立活動において個々のねらいを明確にして取り組む。	・校内研究授業において、「深い学び」の視点で授業づくりを行い検討した。2年間の研究があるので、継続して取り組みたい。 ・知的障害教育における自立活動について職員会議資料等を活用して共通理解を図った。具体的な実態把握からねらいの立て方、指導内容、手立て、評価等についてはさらに検討が必要である。	B
	○豊かな心の育成 児童生徒の豊かな人間性を育むため、地域社会との連携や学校相互の交流及び共同学習を推進する。	・本校の特色を生かし、運動会等学校行事や集会などを全校児童生徒で行う。 ・地域の学校との学校間交流や居住地校交流、地域団体との交流等を工夫しながら積極的に行う。	・全校学校行事をはじめ、全校児童生徒がお互いを意識したり、多くの方に見ていただく機会が多くもてた。 ・交流及び共同学習での直接交流を通じて、大きな集団での活動やいつもと違う環境での学びを体験する機会を多くもてた。	A
	○自ら考え、行動する児童生徒の育成 課題解決に向けて自ら思考し判断する力や、自己選択、自己決定、自己表明する力を育成する。	・授業をはじめ学校生活において、思考したり学んだことを生活に生かしたりするための場面設定を行う。 ・学校全体として系統的に計画・指導を行い、評価できる組織を構築する。	・授業においては、研究部とタイアップして、思考力を高めたり、自己選択や自己決定をする場面設定をしたりして検証する機会がもてた。2年研究があるので継続して取り組みたい。 ・計画的な計画・指導・評価には至っていない。目標を見直す必要がある。	B
学部	重点目標	目標達成の具体的方策	年度末評価	評価
小学部	○6年間の系統性を考慮した年間学習指導計画を検討する。	・6年間を見通した系統的な指導を行うため、各教科や単元等の内容やねらいを明確にした年間学習指導計画の作成に取り組む。	昨年度から準備を進め、今年度の年間学習指導計画について内容・ねらいを明記した様式での作成を行うことができた。生活単元学習については、一覧表にして学年ごとに系統性を考えていった。また、単元ごとに教科の目標達成のためにどの学習活動が設定されているかを考え、指導内容についても考えていくことができた。来年度に向けて、より分かりやすい様式を再検討するとともに、他の教科についても一覧表にして学年ごとに系統性を考えていきたい。	B
中学部	○実態差の大きな生徒が参加する授業での、目標設定や学習活動の工夫について実践・検討する。	・研究授業を行う。 ・生徒個々に「卒業までに身に付けてほしい内容」を選定し、個別の指導計画・年間学習指導計画、授業に反映させる。 ・個別の指導計画を作成する際に、生徒の目標同士を比べながら検討する。	研究授業では、生徒の実態に応じた課題や目標が設定され、支援の手立てを考え、工夫した学習活動を行うことができた。それぞれの先生方が工夫して実践に取り組んでいる。ただし、学年の実態に応じて必要であればグループ別で授業を実施したり、内容によってグループ別学習の時間を設定したりするなど柔軟に対応することも必要である。	B
高等部	○ボランティア活動などの機会を設定し、社会につながり地域に貢献する意識を育てる。	・生徒会活動の一環として、毎月20日の朝、正門前で交通安全の呼びかけを行う。 ・5月と11月にJR観音寺駅の花壇の植替え作業を行う。(農園班) ・「チャレンジ!グリーン活動」(香川県教育委員会)に参加する。(紙工班・生徒会) 上記のほか、生徒からアイデアを募集し、生徒の主体的な取組につながるよう支援し、次年度以降も継続できる活動となるよう整備する。	生徒指導部との連携により、生徒会活動として自立通学生全員で交通安全の呼びかけ、挨拶運動を行うようになった。また、農園班の観音寺駅の花壇の植替え作業、紙工班、縫工班の牛乳パックをリサイクルした製品づくりなど、教員が意識して取り組むことによって活動の幅が広がってきている。生徒の主体的な取組にするには継続して行う必要を感じており、次年度は同様の活動に加えて清掃活動にも積極的に取り組みたい。	B

	年度当初		年度末	
校務部	努力目標	目標達成の具体的方策	年度末評価	評価
教務部	○年間学習指導計画を円滑に作成することができるように、様式や作成手順(スケジュール)等を整える。	・各部の実状に応じた、ねらいや指導内容、配当時数を明記した様式を整える。 ・効率よく作成できるように、学期ごとにねらいや指導内容等を確認したり、年度末に年間指導計画の試案を作成したりするなど、作成手順を調整する。 ・系統性のある計画を作成できるよう教育課程係を中心に校務部会で情報共有するとともに、各部の年間学習指導計画をタブレット端末やPCで自由に閲覧できるようにする。 ・部会を通じて、作成手順を周知することで、円滑に作成できるようにする。	昨年度途中より、様式の検討を行ってきたので、各部の実情に応じたねらいや指導内容等を明記した様式を整えることができた。起案後の修正に時間を要したので、スケジュール調整が必要である。学校全体で統一することは難しいが、年度末に次年度の計画を作成できるものについては作成を依頼し、業務の効率化を図りたい。生活単元学習については、教科等の目標や内容を意識して授業を計画・実施することで指導の充実が図れるよう教科名や教科のねらい等を計画に記載できるよう検討を進めている。	B
人権・同和教育部	○各部の児童生徒の実態に応じた人権学習を推進する。	・様々な人権課題に関する資料等を準備して、閲覧できるようにするし、児童生徒の実態に応じた授業を行うことで、児童生徒の自尊感情を高める。 ・様々な人権課題に興味をもってもらえるように、様々な地域における話題やトピックスなどを、日報等を通じて、職員に伝える。 ・人権感覚チェック項目の内容をより具体化した文言に変更し、年2回チェックしてもらうことで教職員の人権意識高揚に努める。	人権学習週間を中心に、視聴覚教材を準備することで、児童生徒の実態に応じた授業が行え、自尊感情を高めることにつながった。 人権に関する資料が届いた場合には、日報等で周知し、自由回覧できるようにした。次年度は、様々な研究会や研修資料も教職員で共有できるように周知する。 人権感覚チェックは、本年度、文言を若干変更した。結果を教職員で共有することで、教職員の人権に対する意識の向上につながった。	B
研究部	○グランドデザインや各部の指導目標を踏まえ、児童生徒一人一人の可能性を最大限に伸ばす指導力や専門性を高めるために、校内研究を推進する。	・グランドデザインの実現につながる全校テーマと各部毎の研究テーマを設定する。各部で研究授業、研究討議等を中心とした校内研究を進める。まとめとして年度末に研究集録を作成する。 ・発達検査等によるアセスメントを実施し、指導計画作成の資料とする。 ・他の学級や学部の授業を自由に参観し合う相互参観週間を設け、相互理解や学部間のつながりを深めて系統的な指導に生かす。	全校研究テーマの「深い学び」について、各部で研究テーマを設定し、全員が参加して研究を進めてきた。これまでよりも「児童生徒が自ら考えて行動する」場面設定を意識して実践した授業が増えている。来年度も引き続き同じテーマで研究を進め、研究集録としてまとめる。	B
	○教職員の資質や専門性の向上に役立つよう、他分掌と連携して研修を計画・実施する。	・専門知識や指導方法、教育的な視点を学ぶ機会として、スキルアップ研修会を実施する。 ・各種研修会の案内や書籍紹介等、特別支援教育についての最新情報等の周知を行う。	スキルアップ研修の内容については、概ね好評を得た。講座数や講師の負担等については、今後も検討が必要である。	B
メディア教育部	○児童生徒用・教員用1人1台タブレット端末や校内LAN端末などの管理と運用方法の整備を行う。	・タブレット端末や校内LAN機器などの点検を行う。 ・ICT活用促進が進むようマニュアルを作成・配布し、ICT機器の活用のための研修やサポートを行う。	タブレット端末や校内LAN機器などの管理・点検、ICT活用促進のための研修やマニュアル作成・情報共有に取り組むことができた。これからも児童生徒、教員が使いやすいICT環境を整えていきたい。	A
	○本校の概要や学習活動の紹介をするホームページの更新、放送朝礼の企画と運営、学校行事などの視覚支援機器の設営、配信を行う。	・各部の行事を中心とした、ホームページを適時更新するとともに、閲覧の啓発を行う。 ・本校の教育活動が端的に伝わるよう、学校紹介VTRを作成・更新する。 ・児童生徒が活動する様子を動画にまとめた放送朝礼を定期的に行う。 ・式典や学校行事などの視覚支援教材の作成や視聴覚機器の設営、配信の計画を行う。	ホームページについては、メディア教育部のホームページ担当者が行事・学習活動の様子をタイムリーに更新することができている。放送朝礼や学校行事の配信については、積み重ねてきた経験を活かし、リモート配信をすることができているので、継続していきたい。	A
生徒指導部	○引き続き、あいさつ運動以外でも日常において自発的にあいさつができるように取り組む。	・原則、毎月第1・3月曜日をさわやかあいさつの日とし、実態に応じた挨拶の方法を身に付ける機会を設定する。 ・生徒会役員を中心に、生徒会活動を活性化し、明るく楽しく元気よく学校生活を送ることができるように役員改選、部集会・放送、さわやかあいさつ運動、校門前立証等を行う。	生徒会を中心に計画に従ってあいさつ運動などを実施した。職員から率先して手本を示し、あいさつ運動以外でも日常において自発的にあいさつできるように取り組んでいる。自分からあいさつをする生徒も少しずつ増えてきた。しかしながら、まだまだ不十分であると思われるので、より一層地道に継続して取り組んでいく。	B

進路指導部	○実態に応じた進路支援ができるように、進路学習や進路行事の計画・実施を行う。	・行事の前後で担当者と情報共有や意見交換を行い、実態に応じた進路支援となるよう努める。 ・活用しやすい内容となるよう、進路ガイドの見直しを行う。	・進路行事は概ね計画通り実施できた。進路支援については、相談体制を整えたり、必要な情報提供をしたりして、本人・保護者が卒業後の進路について考え・選択できるよう、今後も務める。 ・進路ガイドの改訂を行った。2024年4月に発行予定である。卒業後の進路を考える資料として活用していただきたい。	B
保健部	○感染症の拡大や事故を未然に防ぐことができるように、保健に関する啓発活動を行ったり、緊急時の対応に備えるために、職員の研修を計画・実施したりする。	・手洗い・手指の消毒・換気の啓発・場面に合ったマスクの着用と、感染状況の情報を提供する。 ・外部講師を招き、心肺蘇生法やAEDの使用手順の講習をしたり、各部で救急体制シミュレーションを行ったりする。	・感染症対策として、新型コロナウイルス感染症が5類に変更になり、年間を通じて対策に取り組んだ。今後も保健管理、保健教育内容として、通年の感染症予防対策を継続して取り組んでいきたい。 ・外部講師による水上救助法、各部ごとに起こり得る事故を想定して救急シミュレーションを実施し、危機管理への意識を高めることができた。	A
	○安心して安全な日常生活を送るために、健康の保持増進に関する保健教育を行う。	・身の回りの清潔や性に関する指導を、児童生徒の実態に合わせて効果的に行えるよう、教材の紹介やデータの管理を行う。	毎日のフッ化物洗口、歯のブラッシング指導、外部講師として助産師による「性のサポート事業」を実施した。児童生徒、教員に還元できる教材の提示の検討を進めている。	A
教育支援部	○個別の教育支援計画が、児童生徒の将来の姿をイメージして、家庭や関係機関と連携しながら支援するためのツールとなるよう、具体的な活用の流れを整備する。	・本校職員や保護者に、個別の教育支援計画の作成や活用、サポートファイル「かけはし」の記入支援に関する情報を、作成手引きをもとに職員研修や日報、学校だより等で定期的に発信する。 ・関係機関や保護者、担任等が、サービス担当者会議など関係機関との連携の場にて、個別の教育支援計画やサポートファイル「かけはし」をもとに学校の取組や連携体制を確認し、共通理解のもと指導支援が進められるよう、手続き等の整備に努める。	・本校職員に対しては、作成手引きをもとに、4月の職員研修や部会、日報等で記入に関する情報を発信し、スムーズに作成してもらえるように努めた。保護者には、PTA総会において個別の教育支援計画や「かけはし」について説明するとともに、資料を配付して記入支援を行った。 ・関係機関および関係者との会議（サービス担当者会議等）での活用について、具体的な手順を示すことができなかった。	B
	○特別支援学校のセンター的機能の役割を踏まえて、地域の学校園の特別支援教育に携わる職員や在籍する児童生徒の保護者、関係機関に対して、特別支援教育に関する幅広く新しい情報提供及び相談支援等を行う。	・子ども理解についての研修や情報収集に努め、校内の各部、分掌等と連携を図りながら、ニーズに応じた支援ができるようにする。 ・地域の連携協議会等に参加し、児童生徒に適切な教育的手だてを提供するために関係機関の連携・協力を得られるよう、情報提供や意見交換等を行う。 ・ホームページやリーフレットの配付等を通じて、本校の取組や特別支援教育講演会、教育相談会の周知に努める。	・校内の先生方や研究部、メディア教育部の協力を得ながら連携訪問や特別支援教育講演会、夏季冬季教育相談会を実施し、地域の学校園への支援を行うことができた ・三豊市と観音寺市の連携協議会に参加し、医療・行政・福祉等の関係機関と情報交換や意見交換を行うことで、ネットワークや協力体制の確認およびパートナーシップの形成を図ることができた。 ・ホームページの更新やリーフレットの配付を通して情報発信を行った。	B
総務部	○OPTA組織が各行事をスムーズに実施できるよう役割分担をし、互いに協力してできるように支援する。	・PTA活動の内容、実施方法を検討して見直し、リーダーや本部役員の役割分担を明確にしたり、総務の職員全員が行事を分担したりして協力する。また、行事を自主的に立案・運営できるように役員会等を利用して、早めに引継ぎや話し合いの機会を設ける。	・4年ぶりに対面でPTA総会を行い、本部役員、学級リーダーの役割を確認して各活動につなげることができた。座談会、講演会、環境委員会活動は参加した保護者には研修、情報交換の場として好評であった。親の会の余暇活動も学級リーダーを中心に計画、実施することができ、多数の参加を得て好評であった。	B
	○児童生徒の避難体制及び避難経路の確認・徹底を図る。	・車椅子や装具を使用している児童生徒の避難方法について共通理解を図ったり、避難訓練では、より実践的な設定をし、状況に応じた避難行動ができるようにする。	・車椅子と装具を使用している児童生徒が2階からエレベーターを使用せずに避難する方法について、各部内で共通理解が得られた。中・高等部が作業学習の時間に避難訓練を行い、学級学年グループでない場合の避難経路、避難方法について確認することができた。	B